

ふもと 織姫山の麓から

法玄寺報

第41号

令和2年秋



ペット供養墓が完成



最近ペットを飼う方が多いようです。檀家の皆様のなかでも、お墓参りの時にペットを連れてくる方も時々みられます。

以前は猫については家の中で飼い、犬は外で飼うことが多いようでした。しかし現在では、犬も屋内で飼うことも多いようです。家の中にいつもペットがいると家族のように思えるようになり、ペットが亡くなった時には悲しさにつつまれペットロスという言葉も生まれました。

このようなペットを亡くした際の喪失感により、全国でペット供養墓が作られるようになりました。当山でも、檀家の方からペットのお墓について訊ねられるようになりました。そこでペット供養墓を作り、先日開眼供養を行いました。

ペット供養墓には、個別墓と合葬墓があります。どちらも永代で使用することができます。管理費もかかりません。

個別墓にはペットの遺骨を埋葬し、ペット

の肖像や名前を描いたプレートを前面に取り付けます。合葬墓には遺骨を合葬し、個別墓と同様にプレートを設置することもできます。ペットの肖像があるので、いつまでも思い出を残せます。価格は肖像作成と取り付け、埋葬費用を含み以下のようなようです。

個別墓 20万円(檀家以外の方 25万円)

合葬墓 7万円(檀家以外の方 10万円)

その他、ご要望に応じます。



ペット供養墓。正面は合葬墓で、両側が個別墓です。

山の墓地工事が完了



寺報38号でお知らせした山の墓地工事が、ようやくお盆前に終わりました。ご不便をおかけしましたが、お盆や秋彼岸の際には登りやすくなった階段をご利用できたことと思います。

一昨年のお盆の翌日、雨のために地盤が緩み、大きな木の木が倒れました。木は処分したのですが、木が倒れた跡には大きな穴が空き、前面のコンクリートの擁壁も崩れてしまいました。この場所は、9年前に終了した山門境内墓地整備事業でも、予算不足のために工事を実施できなかった場所で、石の階段は老朽化しており登りづらいうえ



工事前の写真



工事後の写真、同じ場所とは思えないほど変わりました

手摺もありませんでした。

今回の工事では、倒木跡の整備とともに階段を鉄筋コンクリートで作り直したので登りやすくなりました。また階段には手摺を付けたので安全になりました。

工事前後の写真を比べると、同じ場所とは思えないほど変わっています。

木の伐採



山の墓地の西側には、斜面に檜の木が生えています。大きな枝が下の墓地に垂れ下がり、このままでは枝の重さで木が倒れることが危惧されました。そこで垂れ下がっている枝を切ることにしました。

枝の下には墓地があるので、切った枝を下に落とすわけにはいきません。そこで、このような仕事を専門に行う中澤重雄さんをお願いしました。チェーンソーを片手に木に登り、枝を切ってはロープに結び、2人の仲間に指示して下に降ろします。空師というようですが、まさに空中に浮かんで木を切るようで、見ていて感心しました。



空師の中澤さんが木を切っています

施餓鬼をオンライン配信



当山では、毎年8月16日の送り盆に施餓鬼大法要を行います。これまでこの大法要では、新盆の檀家をはじめ多くの檀家の方々に本堂が上がっていただきました。しかし従来のように多くの檀家の方が本堂に入ると密集することになり、感染のリスクが高くなります。そこで前回の寺報でお知らせしたように、今年は新盆の檀家の方に限り一家につき2名まで本堂に上がっていただきました。

このように本堂に上がる方を制限をしたため、多くの檀家の方が施餓鬼法要を見られませんが、そこでフェイスブックでオンライン配信をしました。事前に寺報で「和田幸信（法玄寺）」で検索できることを伝えました。



施餓鬼法要をオンライン配信

当日の16日1時半から、住職が導師を務め6人の式衆とともに施餓鬼大法要を行いました。内陣にスマホをスタンドに固定して、約40分の法要をライブ配信しました。

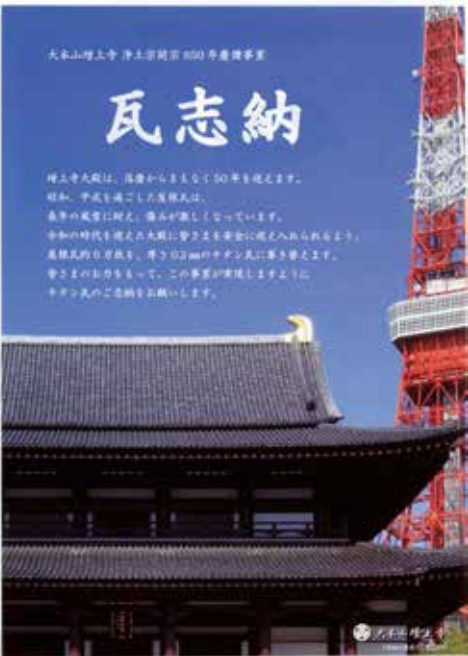
増上寺瓦志納



大本山の増上寺から、浄土宗開宗850年慶讃事業として瓦志納の案内が来ています。チラシを同封しますので、志納される方は当山までご連絡ください。

増上寺では、大殿の屋根瓦の損傷が目立つようになりました。そこで屋根瓦6万枚をチタン瓦に葺き替えることにしました。チタンは軽いうえ強度も高く、耐久性もあります。

志納金は1万円で、志納しますと瓦に施主と肩書、それに供養する先祖の戒名を書き入れます。この瓦を屋根に取り付けることで、先祖の供養をすることができます。志納された方は、志納証と志納シート、限定御朱印を記念品としていただけます。申込期間は来年4月30日までです。

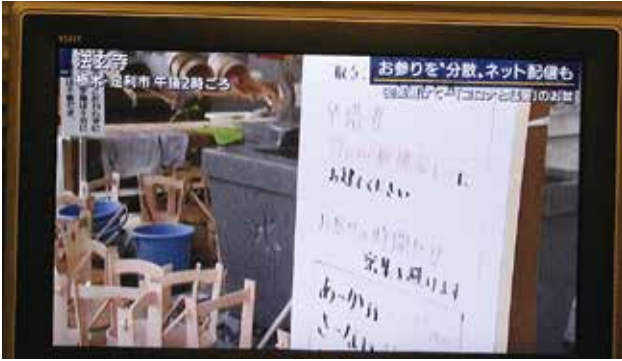


瓦志納のチラシです

で、瓦志納をされる方は来年3月末までにチラシに記入して当山までお持ちください。

報道ステーションで感染予防を紹介

お盆の前日の8月12日、突然テレビ朝日から電話がありました。ニュース番組の報道ステーションで、地方の寺院が迎え盆の13日にどのような感染対策を取っているか放映したいので、取材をしたいとのことでした。当山のホームページで新型コロナウイルス対策を檀家の方々に知らせましたが、これを見て連絡してきたようです。特に密集を避けるため、五十音順でお参りする時間帯を3つに分けたことに興味を持ったようでした。



報道ステーションで紹介された水屋の周辺

迎え盆の13日の午後1時半頃に、報道ステーションの3名の取材クルーが来ました。水屋は混雑するうえ、多くの方が手桶に触るので石鹸を置きました。この周辺を中心に取材しました。またお参りに来た檀家の方々にインタビューしていました。住職もインタビューを受け、当山の感染予防対策について説明したのですが残念ながらカットされてしまいました。

法玄寺御詠歌を作りました

この度、足利仏教会を中心にして足利三十三観音霊場を作ることとなり、当山も加わることになりました。これまで足利周辺地域を含んで足利坂東霊場として三十三霊場が二度作られました。今回は足利市内の寺院だけを対象として、三十三観音霊場を作ることになりました。

三十三観音霊場になると、御朱印帳を持った信徒が巡礼を行います。霊場となった寺院は御朱印とともに御詠歌を書くこととなります。そこで法玄寺としての御詠歌を作ることになりました。



足利三十三観音霊場となった法玄寺の全景

御詠歌では、霊場となった寺院の宗派や教え、それから立地した地域の風土や歴史を詠むこととなります。当山では、浄土宗の念仏の教えや当山が織姫山の麓にあること、庭に白梅があることなどを考えて、以下のような御詠歌を作りました。

白梅の香に誘われし法玄寺
織姫の麓 弥陀光射す